

日本移民学会第 35 回年次大会プログラム

【日時】：2025 年 6 月 28 日（土）・29 日（日）

【会場】宮城学院女子大学

【問い合わせ先】大会企画委員会：iminkikaku@gmail.com

【主催】日本移民学会

大会企画シンポジウムテーマ：継承の在り方を再考する－記念、教育、当事者から

近年の移民研究において、越境の経験がどのように記憶され、継承されるかという問題が注目を集めている。本シンポジウムでは、越境の記憶と継承を「記念」、「教育」、および「当事者」に焦点を当てて取り上げる。

移民の歴史や経験を記念することは、過去の出来事を振り返り、未来に伝えるための重要な手段である。記念行事の開催や記念館の創設、記念碑の建立に加え、記録の保管それ自体も、移民コミュニティのアイデンティティや経験を保持し、社会全体の認識を形成する役割を果たしている。

さらに、移民に関する教育は、移民の歴史と文化を次世代に継承するために重要な役割を担っている。学校教育やコミュニティプログラムにおける移民に関する教育の方法、カリキュラムの内容、そして教育現場での移民経験の参照・テーマ化は、多様性を尊重する社会の実現に寄与する。

なお、移民自身の声も忘れてはならない。当事者、すなわち移民自身が自らの歴史や文化をどのように表現し、維持するかについての考察も不可欠である。移民当事者が自身の物語や経験を発信する事例は、学術界内外で確認されている。

本シンポジウムは、これらのテーマに関する研究成果や実践例を通じて、移民の歴史と文化の継承に関する新たな視点を提供することを目的としている。多様なバックグラウンドを持つ研究者や実践者の知見を集約させ、継承の在り方について考察を深めていきたい。

大会企画委員長 フェリッペ・モッタ

開催校企画シンポジウム：
東日本大震災以降における宮城県の在日本同胞団体活動と外国人移住者への活動
～民族と宗教の視点から

2011年3月11日に発生した東日本大震災における未曾有の被害から14年が過ぎた。東北地方において、日本人同様に外国人移住者当事者や関係する人々はさまざまな活動を展開し、「元気」を取り戻そうとしている。

宮城学院女子大学における開催校シンポジウムでは、宮城県仙台市を拠点とする2つの活動に焦点を当て、今後の日本における海外出身の人々との共生や共存を考えてゆきたい。在日外国人移住者の中で最も大きく、歴史が深い集団であるコリア系の民族団体である在日本韓国民団宮城県本部の取り組みとカトリック教会仙台教区の活動に注目する。また、冒頭では、開催校である宮城学院女子大学の長谷部弘学長からご挨拶をいただきます。

開催校 永田貴聖

■ **2025年度年次大会プレ企画**

日付： 2025年6月27日（金）

《スケジュール》

- 13時50分 仙台市博物館入口入ったところに集合
- 14時 仙台市博物館にて移民・人の移動に関連する展示鑑賞
- 博物館訪問後、青葉城訪問予定

《仙台市博物館へのアクセス》

- 住所：仙台市青葉区川内26
- 地下鉄東西線「仙台駅」から八木山動物公園行きに乗車、「国際センター駅」下車、南1出口から徒歩約8分

※プレ企画への参加申し込みはe-nafで発信致しますので、記載の期日までに必ず申し込みをお願い致します。

研究交流企画推進委員会 菅（七戸）美弥

■ 大会第 1 日目：6 月 28 日（土）

9:00 ～ 16:00	受付（2 階地上階 講義館エレベータ前）
10:00 ～ 12:15	開催校企画シンポジウム（2 階地上階 講義館 C202） タイトル：東日本大震災以降における宮城県の在日本同胞団体活動と外国人移住者への活動～民族と宗教の視点から 司会と趣旨説明：永田貴聖（宮城学院女子大学） 開催校ご挨拶：長谷部弘（宮城学院女子大学・学長） 報告 1．李純午（民団宮城 在日本大韓民国民団宮城県本部・団長） 報告 2．エドガル・ガクタン（カトリック教会仙台教区・司教） 総合討論
13:30 ～ 17:00	大会企画シンポジウム（2 階地上階 講義館 C202） タイトル：継承の在り方を再考する－記念、教育、当事者から 趣旨説明：フェリッペ・モッタ（京都外国語大学） 司会：山本めゆ（立命館大学） 報告 1．東悦子（和歌山大学） 報告 2．山崎哲（一橋大学） 報告 3．大川ヘナン（大谷大学） 報告 4．橋本みゆき（早稲田大学人間総合研究センター） コメント：拝野寿美子（神田外語大学） 蘭信三（関西外国語大学/上智大学）
17:10 ～ 18:10	総会（2 階地上階 講義館 C202）
18:20 ～ 19:20	懇親会（2 階地上階 講義館 C202、茶菓子のみ）

■ 大会第 2 日目：6 月 29 日（日）

9:00 ～ 14:00	受付（2 階地上階 講義館エレベータ前）
9:30 ～ 12:05	自由論題報告
12:30 ～ 14:30	ラウンドテーブル（昼食を食べながら参加可）

■ 大会第 2 日目：6 月 29 日（日）大会終了後

15:00 ～ 16:00	四役会議・理事会（対面）
---------------	--------------

◆自由論題報告

09:30～12:05

A 会場（第 2 講義館 K201）		司会：長村裕佳子、徳永悠
大熊智之（北九州市立大学）	福岡県海外協会の組織と活動－1930 年代を中心に	
白石佳和（松蔭大学）	日系移民が開拓する熱帯季題－俳句歳時記『ハワイ歳時記』と『アマゾン季寄せ』の比較考察	
金希妍（橋間勝希） （東京大学（院））	日本の武道（剣道）を媒介にした文化と民族の間で芽生えるナショナリティにおける考察：今の時代を生きる「ナショナリティとは何か」	
天野剛至（常葉大学）	1900～1930 年代カナダ・オカナガンセンターにおける日系コミュニティの成立と発展－「交友会」関連資料を手がかりに	

B 会場（第 2 講義館 K202）		司会：宮崎早季、大野聖良
山本桂（神奈川工科大学）	ハワイ在住日系女性の訪日旅行と移動するモノ：「日本赤十字社員祖国慰問団」（1941 年）に参加した日系女性の記録から	
馬場由美子 （愛知県立大学（院））	ウルグアイに帰着した「花嫁移民」の生活史——小規模日系コミュニティにおける女性の立ち位置——	
山出裕子（東京学芸大学）	日系女性監督によるドキュメンタリー映画『七転び八起き—アメリカへ渡った戦争花嫁物語』（2015）にみる「女性の関係性」の変遷	

C 会場（第 2 講義館 K203）		司会：グスターボ・メイレレス、藤浪海
高畑幸（静岡県立大学）	明治・大正期の三保半島からの北米移民—移民史と酪農乳業史の接点	
山城千秋（熊本大学）	米軍占領期における沖縄産業開発青年隊運動の再考	
白山彩（ハワイ大学（院））	ロサンゼルス沖縄県系人のアイデンティティ考察—インタビューから読み解くディアスポラ比較分析	
澤田聖也（東京藝術大学）	ハワイの琉球芸能の定着・普及・発展・回帰	

D 会場（第 2 講義館 K204）		司会：劉昊、山田亜紀
アンディ ホリック ラムダニ （公益財団橋本財団ソシエタス総合研究所）	日本の地方自治体における外国人労働者受け入れの実践と特徴—宮城県を事例としたインドネシア人材の誘致と定着支援—	
鈴木美香（福岡大学）	移民・難民の公教育への包摂——トリニダード・トバゴのベネズエラ人保護者の視点から	
佐藤竜之 （東京学芸大学（院））	満蒙開拓平和記念館における「移民の記憶」の想起と忘却～来館者が記述した感想カードの分析から～	
大野俊（京都大学）	フィリピン「残留日本人」の戦後 80 年—過去・現在・未来	

E 会場（第 2 講義館 K205）		司会：Felipe MOTTA, Facundo GARASINO
※E 会場での報告言語は英語です／The language used at venue E is English		
Mariana Alonso Ishihara (Graduate School of Humanities, Nagoya University)	Between the “New Japan” and Okinawa: Transnational Explorations of Postwar Diaspora Politics in Argentina 1965-1972	
Maki Iwasaki (Matsuyama University)	Separation of Church and State and/or Religious Accommodation? —Changes and Challenges in Prayer Spaces for Muslim Students at Japanese National Universities (2007–2024)	
Ken Miyagi (Princeton Theological Seminary)	The Immigration History of Japanese Imperial Christians in the US West in the late-nineteenth and early twentieth centuries	
Douglas de Toledo Piza (Lafayette College)	Mnemonic Activism in Brazil’s Truth and Amnesty Commissions: The Nikkei Movement to Redress Brazilian Government’s Anti-Japanese Oppression	

◆ラウンドテーブル（昼食を食べながら参加可）

12:30～14:30

ラウンドテーブル A（講義館 C202）

Rethinking Migrant Integration and Inclusion

モデレーター：Francis Peddie（名古屋大学）

The Integration of East Asian Highly Skilled Immigrants in Mexico

Huang Yu（名古屋大学（院））

Inclusion in the Intimate Sphere of Irregular Filipino Migrants (IFMs) in Japan: Evidence of IFMs' Agency

Gladys Bongapat（名古屋大学（院））

Beyond Boundaries: Social Networks and Integration Pathways for Second-Generation Nikkei-Peruvians in Japan

Luis Cabrera（名古屋大学（院））

Short documentary film 【Unheard Voices: The Japanese Experience of Two Technical Interns】

Francis Peddie and Satomi Okane

ラウンドテーブル B（講義館 C203）

ハワイ日系人研究への新解釈を探究するダイアログ

モデレーター：南川 文里（同志社大学）

「親日本派」を強制収容したのは権力ではなくハワイの日系市民社会だったのか

秋山かおり（大阪大学）

ハワイ日系二世従軍の忠誠の記憶を再考する

松平けあき（国立国語研究所）

ハワイ日系人のジレンマ：セトラーとしての特権と加害構造、そして「忘れられた記憶」

宮崎早季（一般社団法人クロスユー）

ラウンドテーブル C（第 2 講義館 K209）

ウクライナからの「戦争（避）難民」再考：ポーランド在住の記者・支援者による報告を手がかりに

モデレーター：アンジェロ・イシ（武蔵大学）

ウクライナからポーランドへの難民：『ルポ 悲しみと希望のウクライナ難民の現場から』の著者からの報告（オンライン）

丸山美和（ポーランド国立ヤギェウォ大学）

ウクライナから日本への（避）難民：ポーランドとの比較および在日ウクライナ人の証言から考える現状と課題

アンジェロ・イシ（武蔵大学）

コメント

シェリエ・ポリヌ（Aix Marseille University）

大槻ヴァレリア（仙台市在住ブラジル人コミュニティリーダー）

■ 交流スペースについて

参加者の皆さまがご交流いただけるスペース（第 2 講義館 K206・K207）および荷物を置くことができる教室（第 2 講義館 K208）をご用意しております。K208 は荷物の置き場としてご利用いただけますが、貴重品の管理につきましては各自の責任でお願い申し上げます。必要に応じて、どうぞご活用ください。

■ 昼食について

【土曜日】

キャンパス内の食堂および生協は営業しておりますが、提供メニューやお弁当の数に限りがあり、ベジタリアン対応などの特別なメニューもございません。

また、キャンパス周辺には徒歩圏内にコンビニ等の店舗もございません。

恐れ入りますが、昼食は各自で事前にご準備いただきますようお願いいたします。

【日曜日】

土曜と異なり、キャンパス内の食堂・生協は休業日となっております。

周辺にも飲食店やコンビニエンスストアはございませんので、

必ず各自で昼食をご持参くださいますようお願い申し上げます。

■ 書籍販売について

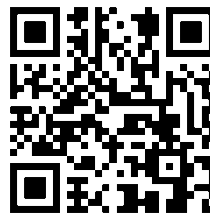
講義館 3 階 C302 教室で行います。

なお、名古屋大学出版会はオンライン販売を行っています。

第 35 回日本移民学会大会参加者対象、書籍全点 20%割引

(公費・校費・研究費等で注文可能)

<https://forms.gle/iYnstv1UuBGnQqGK8>



■ 託児サービスについて

学会参加のために託児サービスを利用される参加者には、託児料の一部を補助する制度があります。

詳細は登録フォームをご確認ください。

■ 大会会場について

宮城学院女子大学 所在地：仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

本大会の会場となる宮城学院女子大学へは、仙台駅からバスで約 30 分を要します。地下鉄および JR の北仙台駅からは、タクシーをご利用いただくと所要時間はおよそ 13 分です。

なお、バスは土曜日および日曜日のダイヤで運行されており、平日と比べて便数が少なくなっております。最寄りのバス停は「宮城学院前」です。特に週末は仙台市営バスの運行が限られておりますので、**宮城交通バスのご利用を推奨いたします。**

※タクシーでの移動

大学からタクシーをご利用になる際は、GO タクシー、DiDi、Uber などのタクシー配車アプリをご活用いただくことをおすすめいたします。

会場の詳細やアクセスは以下の QR コードでご確認ください。



宮城学院女子大学
Google map



宮城学院女子大学交通アクセス



宮城交通ホームページ

大会企画委員：

フェリッペ・モッタ、藤浪海、グスターボ・メイレス、劉昊、山本めゆ、山田亜紀、長村裕佳子

開催校：永田貴聖、石川真作、目黒志帆美、阿部純、小山あゆみ